



【先週 1月3日～1月9日の外食の出来事】

■あみやき亭の20年4～12月期、最終損益は12億4900万円の赤字

2020年4～12月期の連結決算で、最終損益は12億4900万円の赤字となった。前年同期は8億7900万円の黒字だった。2021年3月期通期の純利益予想は開示していない。

■豊洲市場で初競り 大間産本マグロに2084万円

豊洲市場で初競りが行われ、青森県大間産の本マグロが2084万円で競り落とされた。これまでの最高値はおとしの3億3360万円。今年は新型コロナウイルスの感染対策として、市場に入る人の数を減らすなどの対策が取られた。

■宮城県内の飲食店 11月までに休廃業400店以上

新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、2020年1月から11月までに宮城県内で閉店や休業した飲食店が400店以上に上りました。そのうち8割にあたる315店が仙台市内の店で国分町など仙台市中心部に集中。

■ロイヤルHD 希望退職、1.5倍の315名が応募 4百万円の特別退職金が魅力

ロイヤルホールディングス株式会社が、200名の早期希望退職者を募集していたが、315名が応募したと発表した。50歳以上64歳以下に限定して募集していたが、目標の1.5倍も集まった。2021年1月31日付けで退職となる。

■鳥貴族、メニューの2割強をカット 客数回復が見えず、売れるメニューに限定

株式会社鳥貴族が、メニューから15品目の提供を休止した。効率化を図るため。20年8～11月で既存店客数は72.8%と苦しんでおり、メニューの絞り込みで売れるもののみを残し、在庫やロスの削減を行う。

■壺番屋、旭川の繁盛店「成吉思汗(ジンギスカン) 大黒屋」をグループ化

壺番屋は、旭川市で「成吉思汗大黒屋」を運営する(有)大黒商事の全株式を取得し、連結子会社化したと発表した。同店は北海道を訪れる観光客のみならず、地元の人々からも強く支持されている繁盛店である。

■イトアンドHD、昭和30年創業の「横濱一品香」を完全子会社化

イトアンドホールディングスは、「横濱一品香」を運営する(株)一品香を1月1日に完全子会社化した。「横濱一品香」は、昭和30(1955)年に、横浜の野毛にて、わずか3坪、カウンター9席の小さなお店でスタート。

■出前館、配達代行手数料を25%に値下げ

デリバリーサービス『出前館』を運営する株式会社出前館が、2021年1月1日(金)から、配達代行手数料を商品代金の30%から25%に引き下げる。また、初期制作費用を無料とする恒常的なプランを新たに設定した。

■海帆、元ガーデン國松氏が代表就任 9億円の増資確定

株式会社海帆が、6日付けで取締役副社長の國松 晃氏が代表取締役に就任した。久田 敏貴氏は取締役として残る。投資会社、TB1株式会社が6億円の第三者割当増資と3億円の新株予約権発行が行える素地が整った。